

香川県の地震

令和5年(2023年)3月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会^(注)

評価検討会調査結果 令和5年(2023年)4月7日	・・・	2
---------------------------	-----	---

(注)直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

「令和5年2月1日から、高解像度・高精度な 推計震度分布図を提供しています」	・・・	3
---	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

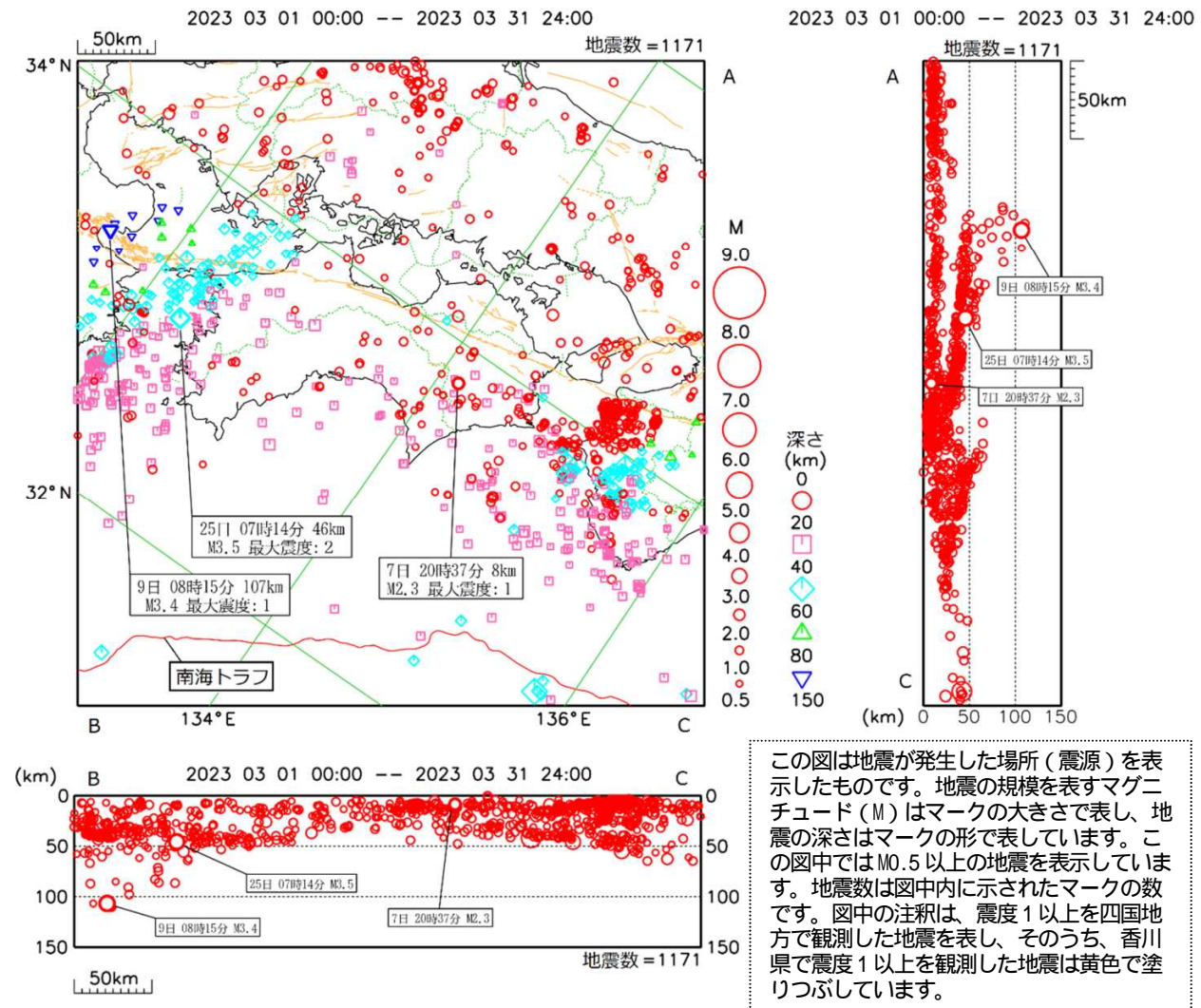
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2023年3月

震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は0回）

四国で震度1以上を観測した地震は、次の4回でした。

7日 20時37分 徳島県南部の地震（深さ8km、M2.3）により、徳島県那賀町で震度1を観測しました。

9日 08時15分 伊予灘の地震（深さ107km、M3.4）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

22日 04時54分 日向灘の地震（深さ19km、M3.9；震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市で、震度1を観測したほか、大分県、宮崎県で震度1を観測しました。

25日 07時14分 豊後水道の地震（深さ46km、M3.5）により、愛媛県宇和島市で震度2を観測したほか、愛媛県、高知県、大分県で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

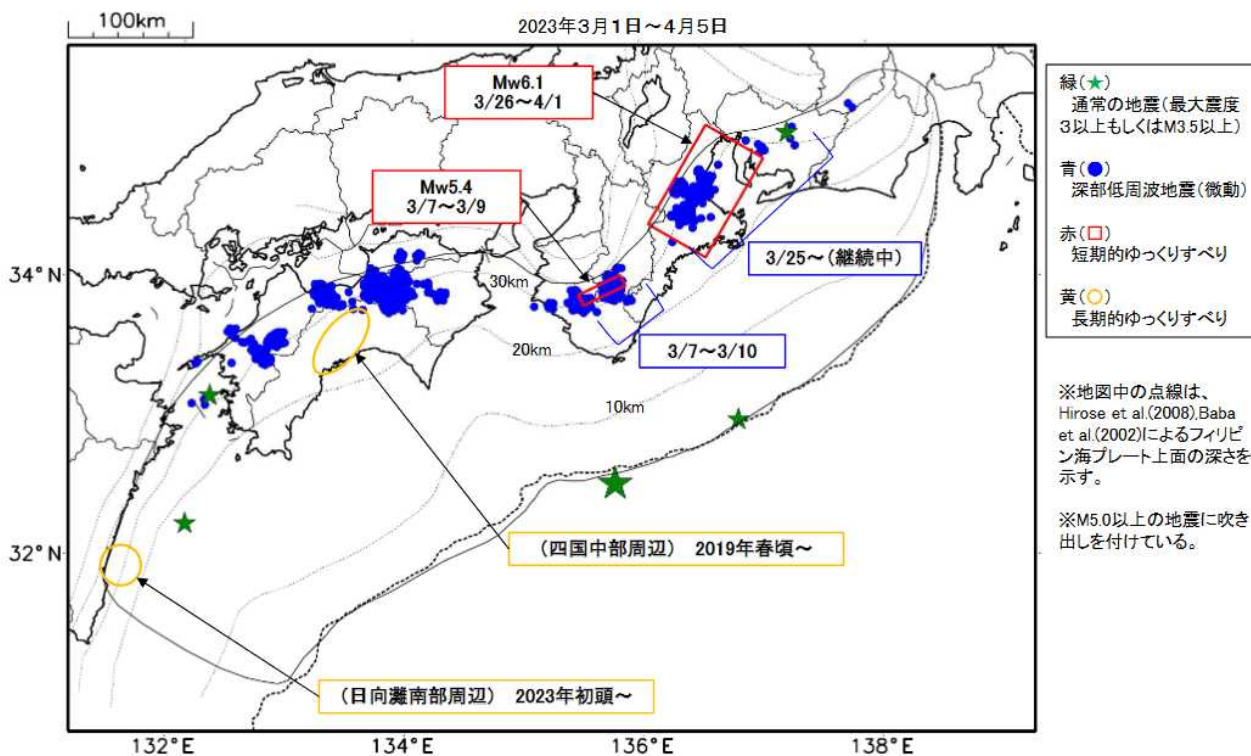
令和5年(2023年)4月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注)南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【紀伊半島中部、紀伊半島北部から東海】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、日向灘南部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青) 短期的ゆっくりすべり(赤) 長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2304/07a/nt20230407.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム> 防災情報> 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

「令和5年2月1日から、高解像度・高精度な推計震度分布図を提供しています」

推計震度分布図とは

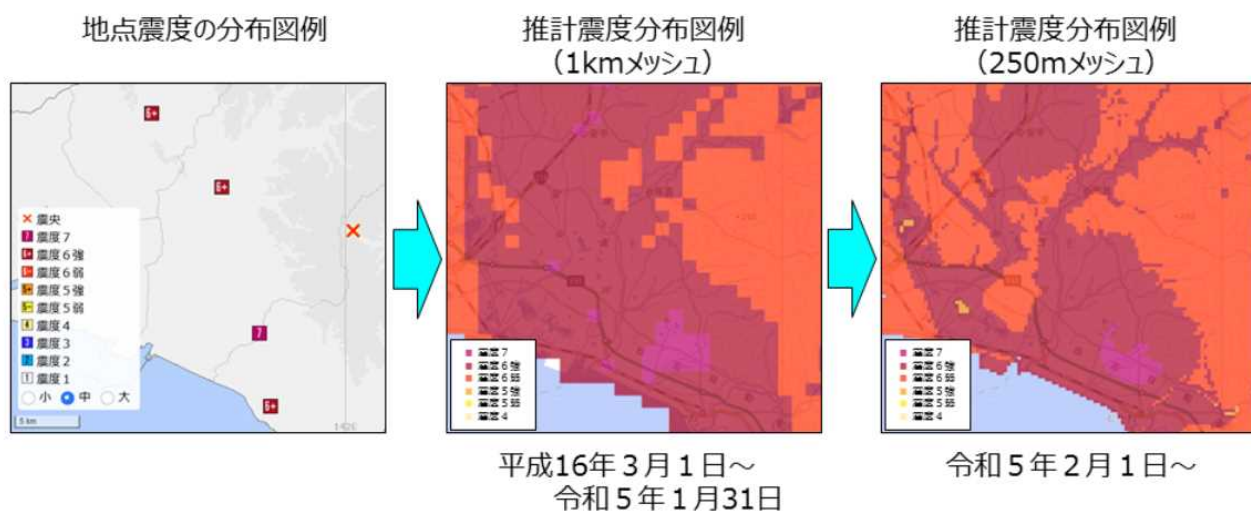
推計震度分布図とは、実際に観測された震度等を基に、地盤増幅度（地盤の揺れやすさの指標）を使用し、震度計のない場所での震度を推計し、震度の面的な広がりを表現したものです。原則として最大震度5弱以上の地震を観測した場合に発表します。

推計震度分布図の高解像度化・高精度化

従来、気象庁では推計震度分布図を「1kmメッシュ」で提供していましたが、令和5年2月1日からは「250mメッシュ」で推計したものを提供しています。これにより揺れの強かった地域をより細かいメッシュで的確に把握できるようになりました。

また、緊急地震速報の震度予測技術を用い、停電等で震度データが入手できない観測点があった場合も高い精度の推計震度分布図を提供できるようになりました。

高度化による改善イメージ



推計震度分布図の利用に際しての留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、そのメッシュ内の平均的な値を示すものです。各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものでなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。

したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。また必要以上の縮尺に拡大することも適切ではありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な広がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

配信資料に関する仕様 No.40102 ~ 推計震度分布図 ~ 令和2年3月31日 気象庁地震火山部（令和5年2月1日改訂）
<https://www.data.jma.go.jp/suishin/shiyou/pdf/no40102>

推計震度分布図について（気象庁ホームページ）
<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/suikai/kaisetsu.html>

推計震度分布図（気象庁ホームページ）
https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map